

2019年12月19日

加盟団体 代表者 殿

公益財団法人全日本ボウリング協会
指導委員会 委員長 金谷 志信
認証部会 部会長 四宮 和裕
(公印省略)

ボウリング施設、設備及び競技用具認証規格 第4章ボウリングボールの変更について

拝啓、平素は当協会の諸事業に格別なるご理解とご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2019年11月28日開催の理事会により表題の規格が2020年8月1日より一部改正し、施行されることとなりました。

本変更に伴い現在使用されているボールが使用できなくなる場合があるため、必ずボウリングボール規格をご確認いただき、規格に則ったボールを使用していただきますよう宜しくお願いいたします。

2020年8月1日より施行される本規格のなかで、特にご注意いただきたい点は以下の通りです。その他不明な点がありましたら、JBC事務局(担当:大澤、羽島)までご連絡ください。

敬具

記

① 第34条バランス (1) 10ポンドを超える重量のボール

- ・ ボールの上半分(指穴側)と下半分(指穴の反対側)の差が3オンス(85グラム)以内であることは変更ないが、フィンガーホール(サイドウェイト)・前後(サム/フィンガーウェイトバランス)の差が3オンス(85グラム)以内となるように変更される。
- ・ 指穴も窪みも開けずに使用されるボールは、ボールのどの半球の間にも3オンス以上の差があつてはならない。

② 第35条ドリリング規格(1)

- ・ 指穴として使用するホールや窪みは5つ以下とし、フィンガー1本に対し1つ、サムホール1つに限られる。
- ・ 投球中、全ての指穴を同時にグリッピングして使用せねばならない。
解釈: バランスホールのドリル、コンベンショナルグリップ・フィンガーチップグリップの2列使用、親指を指穴へ入れない投球者における親指穴のドリル、これらが禁止となる。

③ 本規格は2020年8月1日一部改正し、施行する

→2020年7月31日までは現状の規格を適用のため、バランスは3・1・1でバランスホールやコンベンショナルグリップ・フィンガーチップグリップの2列使用は可能。

【移行期間】

- 2020年1月1日~2020年7月31日を移行期間とし、この期間中は新旧の規格で検査を実施する。(バランスホール有り・2列フィンガーホールの場合は旧規格検査、バランスホールが無いボールは新規格検査)

なお、本移行期間中におけるボール検査合格証の取り扱いについては、別紙【JBC ボール検査合格証の記入について】を参照のこと。